

くもんの

中学

基礎がため100<sup>パーセント</sup>%

中1国語 読解編

解答と解説

- ・難しい問題には解説がついています。よく読みましょう。
- ・(例) は、自分で言葉を考えて書く問題の解答例です。同じような意味であれば、解答と全く同じ答えでなくても正解です。
- ・別解は、( ) の中に示してあります。( ) の中の答えでも正解です。

くもん出版

一章 説明文 1 指示語

基本問題①

P.4

- ★ 赤いさいふ
- (1) 花びん 花
- (2) 贈り物
- (3) 読書感想文
- (4) 去年買ったグローブ

P.5

2

- (1) 遊園地
- (2) 公園
- (3) 多くの文物
- (4) 小さな空き地
- (5) 家族でスキーに行った

2

- (1) 伊豆の島
- (2) 赤い服を着た男の子
- (3) おじさん 京都

【解説】 このように、指示語が前ではなくあとの言葉を示すこともあるので、注意しよう。

- (4) 駅
- (5) 雪をかぶった山
- (6) フランス

一章 説明文 1 指示語

基本問題②

P.6

1

- (1) 公園の掃除を毎朝している
- (2) 学校のすぐそば 小さな沼

④ 夏鳥 冬鳥 (順不同) が通るかを確かめよう。

一章 説明文 1 指示語

標準問題

P.10

1

- (1) 石油 石炭 天然ガス
- (2) 昔の生き物としてできた化石燃料
- (3) 化石燃料
- (4) ウ

【解説】 ほかの例として「森林資源の無計画な利用」があげられていることから考えよう。

(1) 説明をしたり、意見や考えを述べたり、いろいろな場で発言した

(「説明をしたり、意見や考えを述べたり、」の部分は入れなくても正解。)

- (2) イ

【解説】 あとの「話し方が速すぎるか、遅すぎるか」の結果として起こることが、「これ」の内容にふくまれる。

- (3) 話は、速さ
- (4) いちばん理解しやすい速さ
- (5) 例えば、あ

一章 説明文 2 接続語

基本問題①

P.7

2

- (1) 青く輝く宝石
- (2) むらさき色のつり舟のような花
- (3) 今度の試験で六十点以下の人は再試験をする
- (4) とてもすてきなスポーツマンタイプの男性
- (5) ガソリンで走る自動車が姿を消す
- (6) 毎日合唱コンクールの練習
- (7) やる気がないのなら辞めてしまえ
- (8) 「ああいうこと」は言った内容を指している。
- (9) キツネやタヌキやシカ
- (10) 一組が優勝
- (11) (前者) 英語を学びたいという人
- (12) (後者) 中国語を学びたいという人

一章 説明文 1 指示語

基本問題③

P.8

1

- (1) 鉱物
- (2) 広く一般の人たちでも手に入るような器も作る
- (3) 先端がやすり状の小さな脚
- (4) 微生物 黒い湿った土
- (5) アサガオがなぜ朝咲くか
- (6) 動物の生息地
- (7) 自分たちの生活と土地や環境全体とのつながり
- (8) 【解説】 「考えていく」の目的語(何を)にあたる言葉を探せばよい。「そのこと」にあてはめて、文意

P.9

2

- (1) ア
- (2) ア
- (3) ア
- (4) イ

P.12

確認

- ★ (1) かぜをひいた
- (2) 元気だ

P.13

1

- (1) イ
- (2) ア
- (3) ア
- (4) イ

【解説】 「道路情報」と同じように伝えられるもので、別の「情報」なので、「天気予報」が適切。

2

- (1) イ
- (2) ア
- (3) ウ
- (4) イ

一章 説明文 2 接続語

基本問題②

P.14

1

- (1) ちょっと立ち止まって 見方
- (2) 年かさ 聞き取れない
- (3) (1) 人類 地球全体の資産
- (4) (2) ウ
- (5) (1) たい肥 農薬
- (6) (2) イ

P.15

2

- (1) 年かさ 聞き取れない
- (2) (1) 人類 地球全体の資産
- (3) (2) ウ
- (4) (1) たい肥 農薬
- (5) (2) イ

一章 説明文 2 接続語

基本問題③

P.16

1

- (1) ア

2

- ① イ
- ② ア
- ③ ウ

**解説** 前の「見渡すかぎりクロマツの針葉樹林」と、あとの「襟裳砂漠」は対照的な景観なので、逆接の接続語が入る。

- ④ ウ
- A ア
- B イ
- C エ

一章 説明文 2 接続語 標準問題

1

- (1) ウ
- (2) イ

2

- (1) ① 慣れ ② イ
- A ア
- B エ
- (2) 都市の気温 周囲の郊外 高くなる
- (3) III

**解説** 「」の中の内容は、「二〇三〇年ごろの東京の温暖化」を、具体的な数字をあげて詳しく説明したものであるから、IIIの直後に入れるのが適切。

一章 説明文 3 内容の理解 基本問題①

- ★ A ア
- B イ

2

- (1) B 地球の回復能力
- (2) 表情
- (1) 起承転結 緩急 強弱 ゆっくり 速く
- (「緩急」と「強弱」は順不同)

- ③ (腐植土) 水を吸ったスポンジ (森林) 緑のダム

**解説** 「話の表情」の直前の「そのこと」とは、「人間の話には、…なるのがふつうです。」までを指しているので、この部分に注目する。

一章 説明文 3 内容の理解 基本問題②

2 1

- ウ (1) 生息地の環境、習性や行動
- (2) アメリカ

3

- (1) ① 通過する時に一時立ち寄るだけの
- (2) ② 小規模の渡りをする
- ウ

**解説** …の前後の言葉に着目する。

一章 説明文 3 内容の理解 標準問題

1

- (1) 冬
- (2) やがてブナ

**解説** 「凋落」には、「衰えおちぶれること」という意味もあるが、ここでは、ブナの葉が落ちつくした状態を表す。

- (3) 必要な枚数だけ冬芽の中に準備されている
- (4) イ

**解説** 文章の最後の二文に注目しよう。人間は、「自然の中に身を置いてみて」初めて、自然の大きさに

ふれることができ、大自然の一員としての自分を認識できると述べている。

2

- (1) 二酸化炭素
- (2) ① かけぶとん ② 温室のガラス

**解説** 「副産物」とは、目的の物を作ろうとする過程で得られる別の産物のこと。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題①

- ★ (1) イ
- (2) 習慣化すべき

1

- (1) 段落 障害のある人
- (2) 段落 目的
- (1) 段落 衣服
- (2) 段落 イソギンチャク

**解説** 「読書力」は日本の地方だからだに、理由や根拠をしめす「から」という表現が使われていることに着目する。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題②

1

- (1) 段落 腐植土
- (2) 段落 緑のダム
- (3) 段落 調整作用 変動
- (1) 段落 太陽
- (2) 段落 ヒートアイランド
- (3) 段落 温暖化
- (4) 段落 熱を蓄える効果

2

- (1) 段落 太陽
- (2) 段落 ヒートアイランド
- (3) 段落 温暖化
- (4) 段落 熱を蓄える効果

**解説** ④段落初めの「すなわち」に着目しよう。③段落の「近い将来」の「東京の温暖化」に関して具体的にどんな問題が起きるか説明している。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題③

P.30 1 イ

**解説** 段落の要点は、文章全体の文脈の中でとらえる。ここでは、②段落の初めの「そのような能力」の「その」に合う内容が①段落の要点である。

(2) 渡り

(3) 渡りは冬の寒さをさけるための行為ともいえる。

(1) 生物の多様性

P.31 2

(2) イ

**解説** ①段落で述べた「生物の多様性」について、②・③段落でくわしく説明している。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 標準問題

P.32 1

(1) 同じ意味

(2) 漢字で日本語の発音を表す方法

(3) 意味 発音 あわせて

P.33 2

(1) 固執する

(2) ア

(3) イ  
(4) ① ② ③ ④

**解説** ④段落では、「渡り」がどんな能力であり、研究が進められる中、現在どんな状況にあるかをまとめています。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 基本問題①

P.34 確認 ★ (1) 気温

(2) 緑地 効果

(3) 緑地

1 この展示は

2 創造的な生

(1) 愛着

(2) 観念的 自然

(3) 友

**解説** 筆者は「抽象的な、観念的な自然」に対する日本人の愛着の強さを認めながら、「現実の自然との一体感」を取り戻すことが大切であると考えている。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 基本問題②

P.36 1 実感(「意識」でも正解。) めぐる輪

2 すべての人 自分らしさ

P.37 2

1 ア

**解説** 文章の最初に「江戸切子は……ほろびなかつた。なぜか。」とあり、筆者は、江戸切子の「大量に安く作る技術」を評価している。

2 イ

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 基本問題③

P.38 1 (1) 自然の資源 新製品

(2) イ

(3) 地球全体 地球の将来

**解説** 文末に注目し、筆者の意見をとらえる。

P.39 2

(1) 漆 接着剤

(2) ア

**解説** 「その証拠に」とあるので、このあとに述べられている内容が筆者の考えの根拠にあたる。

(3) ア

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 標準問題

P.40 1 (1) つまり人類(「特に十九世」でも正解。)

(2) ・人口

(3) ・自然

**解説** 筆者は考えるべき「難しい問題」として、「人類

P.41 2 (1) 生活 つながり

(2) ① たい肥 加工(活用)も正解。

② ごみの量を減らすこと

③ この取り組みは、自然

**解説** ③段落で、「この取り組みは、」といえる。と、筆者の意見をまとめています。

**解説** 前に「自分たちの残した給食から肥料を作り、その肥料で作られた野菜を再び口にすると体験」とあるので、これが表す内容を考える。

一章 説明文 完成問題①

P.42 ◆ (1) ウ **解説** 「白い歯」が見えるのは笑顔。

(2) ① イ

② 垣根

**解説** 「幕が……落とされた」「垣根が……開けた」は、対になって筆者の状況をたどっている。

(3) ア ①段落 ウ ②段落 イ ③段落 エ

(4) ④段落 オ ⑤段落 ア

(5) 言葉こそ

**解説** 文章全体の内容をふまえて考える。この文章では、筆者が現地の言葉を覚えて使ったことで、心の交流ができた喜びが中心に描かれている。つまり、言葉が人と人との心を通わせることを述べた部分が筆者の考えの中心である。

**書いてみよう**

**例** 試合前に自信をなくしたとき、友達に「マイペースでやれ!」という言葉聞いて一杯プレーできたことがあった。その言葉は今も私を励ましてくれる。(七十字)

**一章 説明文**

**完成問題②**

P.44 ◆ (1) A イ

B ア

C オ

**解説**

それぞれ、接続語の前後の関係をとらえる。Aは、前の「利用できない」とあとの方の「取りこむことが可能になる」は、鉄に関する反対の立場を述べている。Bは、前の「日本各地で現実化している」ということを受けて、あとにその例を挙げていく。Cは、前の「五十年間…」にあとで条件をつけくわえている。

(2) 有機物質 鉄

(3) ① 森林の腐植土から流れてくる物質

**解説** ①—②が「沿岸部の植物プランクトンを育て

ている」ものであることに注意して十五字の言葉を探す。

② 窒素・リン・ケイ素・鉄(順不同)

(4) 植林

**解説** ④段落に「例えば気仙沼の漁民のように……植林を始めている所もある」と述べられている。

(5) I 植物プランクトン

II 森

(6) ウ

**解説** ①・②・③段落は、海藻や植物プランクトンを育てることについて、④・⑤段落は、海の生物と森との密接な関係について、⑥段落はまとめになっている。

(7) 自然界 微妙なバランス 壊さない

**二章 小説 1 場面をとらえる**

**基本問題①**

P.46

**確認**

★ 時 夜中

場所 わたしの部屋

登場人物 ミコ 母

できごと 夢 うなされて

① 秋の夕方

② 五月半ば 朝

③ ① 海沿いの道路

(2) ② 例 正午

P.47

**2**

① 秋の夕方

② 五月半ば 朝

③ ① 海沿いの道路

(2) ② 例 正午

(2) 鼻先 ひげ 深呼吸

**二章 小説 1 場面をとらえる**

**基本問題③**

P.50

**1**

(1) ① 赤毛の巡査 広場

② 人影一つ見あたらぬ

(2) ① のりのきい

② 犬を追いかけている。

**解説** 最後の一文「男は犬を追いかけ…」から男の行動をまとめる。

(1) (人物) マキ (動物) カモメ

(2) ① A 海 ひざからも

B 海 おへそ

(3) A 向こうの島 カモメ

B 麦わら帽子

(4) はばたかせた

**二章 小説 1 場面をとらえる**

**基本問題②**

P.48

**1**

① 彼 待ちぶせ

**2**

② 車 修理

(いつ) 夜中

(だれが) 三吉

(何を) 名前

P.49

**3**

(1) ① すきとおった

② 秋

**解説** ふつう、山の栗の実が落ちるのは秋である。

(2) 栗の木 やまねこ

**解説** 栗の木に話しかけている一郎の言葉に注目する。

(1) じいっととぐるを巻いて、息を殺しておる

**解説** 「じいっと、とぐるを巻いて、息を殺している」も同意だが、二十字になるので正解ではない。

**二章 小説 1 場面をとらえる**

**標準問題**

P.52

**1**

(1) 吹雪 山の中

(2) 気を失って 岩倉のおじさん

(3) 助かった 直前に「助かった、と思った。そう思う」とある。

(4) 暗い空が **解説** 「鳴り」「きしむ」などの音を伴う表現に着目する。

2

- (1) 翌日も彼は同じ
  - (2) 肩から新聞をぶら下げた少年  
一軒一軒の家 新聞
  - (3) 彼目がけて石を投げつけた
- 解説** 直後の一文に書かれている。
- (4) ならみつけ にげよう

二章小説 2 心情を読み取る

基本問題①

1

- ★ さっぱりした
- (1) イ
- (2) あわてて

2

- (1) せいせいした
- (2) つかれた ・ うれしい

3

- (1) 悲しみ ・ 恐怖
- (2) ア

**解説** 「この騒ぎの張本人」とは、「白いボルゾイの子犬」のこと。この犬の気持ち（「悲しみと恐怖」）が表れている様子を選ぶ。

二章小説 2 心情を読み取る

基本問題②

1

- 1 ウ
- 2 ア
- 3 ウ

1

- (1) イ
- (2) ・ 早く終われ ・ いつまでも来るな

**解説** 徒競走が「早く終われ」と思う一方、「いつまでも来るな」と、つじつまの合わない二つの願いをいだいている。

- (3) むなしい期待
- (4) ウ

- (1) どうてい人に好かれるたちでない
- (2) 不思議・不審

**解説** 「不審」とは、疑問に思うこと。

- (3) つまはじきをする
- (4) (例) おせじがきらいである

「おせじがきらいな」「おせじはきらいだと答える」などでも正解。

**解説** 「それ」が指す内容を直前の文から考える。

二章小説 3 人物像をつかむ

基本問題①

1

- ★ 男(わたし)の年齢 十八
- シミーウェルズの年齢 二十
- シミーの性格 気のいい男
- 二人の関係 仲良し

猫のような耳 ぼやぼや 灰色の髪

- 1 声変わり 大人びて
- 2 (額) ウ (まゆ) カ

2

1

- 2 イ
- 解説** 「対峙」は、競うようにして向かい合って立っている様子を表す。「鋭い目をした」からも、二人の間の緊張感がうかがえる。
- 1 ウ
  - 2 イ
  - (1) トロッコ 土工たち
  - (2) ひやりとした

二章小説 2 心情を読み取る

基本問題③

1

- 1 なんだかうような
- 2 カモメがうくなった

2

- (1) しんどい
- (2) よつぽど投

3

- 1 イ

**解説** 「雲一つない」は、晴れ渡っている様子で、心にもいやな思いがなくなきさっぱりしている状態を表していると考えられる。

- 2 小島は海におぼれ始める。

- (1) ウ
- (2) 遠く来すぎたこと

二章小説 2 心情を読み取る

標準問題

3

- 弱虫

**解説** 「…のくせに」とあるので、「くりをぬすみに来る」ことに反する内容が入る。

4

- イ

二章小説 3 人物像をつかむ

基本問題②

1

- 走るが遅い クラス トップ 足の持ち主
- (1) 弟子入り 五 口うるさい
- (2) ア

**解説** 二文めに「一人前になるには、もう七、八年かかる」とある。「半人前」とは、まだ一人でできないとした仕事ができない者のこと。

3

- (1) ウ

**解説** あとの「あるとき将棋を…冷やかした。」の文から、兄のずるい性格がわかる。

- (2) 十日に一へ

- (1) イ

- (2) イ・エ

**解説** 好意的な家族の様子に、ほっとしている。

二章小説 3 人物像をつかむ

基本問題③

1 2

- ① 考えこむタイプ
- ② 気が弱い（「気の弱い」でも正解。）
- ① 親ゆずりの無鉄砲

【解説】「無鉄砲」とは、深く考えないで無茶をすること。

3

【解説】「我慢強い」は、忍耐力があること。父に弱味を見せるのが嫌なことから「負けず嫌い」とわかる。

4

【解説】オチュメーロフは、狂犬と決めつけて直ちに撲殺するように言っていた犬が、シガーロフ將軍の所の犬だとわかった途端に、犬をかばい始めている。

二章 小説 3 人物像をつかむ

標準問題

1

- (1) ぐいと寄せた太い 天狗のように たくましい
- (2) なんとも滑稽でおかしな顔
- (3) ウ

【解説】文吉は、ぬすつとの「恐ろしい顔」を表向きのものとして、「なんとも滑稽でおかしな顔」をかぐされたものとしてとらえている。

2

- (1) 背 古い印ばんでん
- 季節外れの麦わら帽

21

イ 不公平

43

- (1) 毛布 うつつむけ 倒れておいで
- イ

【解説】筒のような形をして花びらの先のほうが五つに分かれているりんどうの花を、「コップ」にたとえている。

5

- (1) ア
- (2) イ
- (3) オ
- (4) エ

二章 小説 4 表現に注意する

標準問題

1

- (1) あらし 花火
- (2) ③・④
- (3) 汽車
- (4) イ

【解説】象のオツベルに対する怒りの激しさや、それが爆発する様子を火山にたとえて、「一度に噴火した」と表現している。隠喩法は、何かを暗示してたとえる表現技法で、ここでは、象の怒りの強さを暗示している。

2

- (1) どでかい穴 なま暖かい空気

- (2) 親しみやすい
  - (3) この人たちならばしかられない
  - (4) イ
- 【解説】子供だから乗ってはいけなと言われたり、「驚かそう」としたりはしていない。

21

★直喩法 馬 風  
 隠喩法 遊び 勉強  
 擬人法 風 ささやく

イ 犬 気がたつて 火のつくように

43

【解説】「黒山の」は、人の頭が黒いことから、人間が大勢集まっている様子を表すときに使う。

十三湖 人に捨てられた孤独の水たまり

獄門台 露と消えよう

【解説】ぬすつとは自分の命を「露」にたとえて、処刑されて自分の命が絶えることを「露と消えよう」ともと言っている。

5

- (1) 声もなく
- (2) ア

二章 小説 4 表現に注意する

基本問題②

- (1) エ
- (2) ア
- (3) ① 三太郎 ひげ
- (4) ② 隠喩（「暗喩」「比喻」でも正解。）

【解説】「...ような」を使わずに、「三太郎のひげを「うなぎ」にたとえている。

(4) 山をふた巻き

二章 小説 5 主題をとらえる

基本問題①

21

★ア

- ① 殺し合い 百年 車

【解説】「殺し合い」ばかりで何も作り出さない「侍」と、「百年の間」役に立ち続ける「車」を作り出せる「車大工」である自分の立場を比較し、親方は誇りを感じている。

② 許しておけない ならみつけて 恐ろしい顔

21

二章 小説 5 主題をとらえる

基本問題②

1

- (1) ボブ 約束の場所 手配
- (2) ① 私服刑事
- (3) イ
- (4) ② 逮捕された

2

**解説** 「善人」から「悪人」に変わってしまったボブをジミーは自分では逮捕できなかった。約束を果たしにきたかつての親友を思う気持ちからである。

- (1) 気まぐれ 好きなよう
- (2) ウ
- (3) イ

**解説** 「わたし」の「今度から…」「お前の好きなように…」という息子の自主性を尊重した提案を、岳は受け入れている。

- (4) イ

二章 小説 5 主題をとらえる

標準問題

1

- (1) イ
- (2) イ

- (3) 片方の目 僕 あーちゃん

**解説** 「片方の目がふさがれたことで…始めていたのだ。」から、「僕」がけがをした「片方の目」に眼帯をつけて過ごすという経験を通して、片足が不自由な「あーちゃん」の思いに少し近づけた様子が想像できる。

2

- (1) イ
- (2) 自然 手 彼の体
- (3) ア
- (4) ウ

を決めている様子から、良平はかなりしつかり者で前向きな性格だと思う。(五十八字)

二章 小説

完成問題②

- ◆ (1) A イ B ウ C ア

**解説** A夜遅くに話しかけるときの声である。B直前の口調からわかる。

- (2) イ
- (3) 自分のことしか
- (4) ア

**解説** あとで「よけるのは母ちゃんに悪い気がした」と考えていることに着目する。自分が悪いことをしたこと怒ってくれる母の気持ちを、まっすぐ受け止めているのである。

- (5) ア・イ

**解説** 母親の言動に着目して人物像をとらえる。「おまえがいなくなったことがわかったら、…街の中を捜し回るかもしれないだろ、この夜中に。そんなこともわからんのか」、「自分で考えれ」とある。また、母親は、怒りながらも、お腹をすかせた息子にご飯を腹いっぱい食べさせようとしている。

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る

基本問題①

**解説** 「彼がハンディを…みじんもなかった」「僕の手は…差し出されて」から、「僕」と「あーちゃん」が普通の友達として交流を深めていく様子が読み取れる。

二章 小説

完成問題①

- ◆ (1) ウ
- (2) A ウ
- (3) B イ

**解説** 普通ならば「駄菓子」をもらえればうれしいはずであるが、このときの良平は、自分が早く帰りたいと思っているのに茶店でのんきに休んでいる土工たちをいらいらしていた。それが「冷淡さ」となって出てしまったのである。

- (4) 日が暮れる

- (5) イ

**解説** 土工の「おれたちは今日は向こう泊まりだから。」という言葉を聞き、良平は、行き着く所まで行ったのちに土工と一緒に帰れると思っていた自分の思いが裏切られたことを知って、ショックを受ける。

- (6) 暗く 道 たった一人 歩いて

書いてみよう

例 「泣いている場合ではない」と、一人で帰ろうと覚悟

確認

★ **体験** 宇宙飛行士

**表現** 糸 ガラス玉 胸

**筆者の思い** もろい

- (1) かおりのすずしさ
- (2) 舌がおどろいた
- (3) イ

**解説** 台湾に生まれて育った筆者は、りんごを初めて食べて、四季のある日本に強く心を引かれたのである。

2

- (1) 大阪弁 混ざり気 きれい
- (2) ウ

- (3) そう、褒められたのだ、あのおばさんに！

- (1) この世のも ・火を吐いた
- (2) ・やわらか のほほん

・立つ 目

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る

基本問題②

1

- (1) 九十年の生きざまの集大成

**解説** 自分のことは、自分でするという祖母の生き方が、「手ぬいの白装束」によく表れていると、筆者は感じたのだ。

- (2) 気持ち つらい

- (1) 目 無数 ちよう
- (2) 無風の旅

2

- (1) 目 無数 ちよう
- (2) 無風の旅



3

- (1) 留学生 蔵王温泉
- (2) イ
- (3) ちっぽけな宿屋
- (4) 旅館 ホテル 違い

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る

標準問題

1

- (1) 何も何も
- (2) 相手をいたわるかけ声

【解説】「ちつともかまわないんですよ。」「お気になさないで。」といったいたわりのニュアンスがある。

- (3) もの 頼みやす 和やかな感じ
- (4) ウ

【解説】「会話のクッションになるような言葉」に注目する。

2

- (1) ・水 食べるもの
- ・子防注射
- ・内戦 地雷

- (2) 生きて 希望 発展途上国 大部分
- (3) 痛み
- (4) ア

【解説】ボランテアというのは、自分自身を知ることだというのがこの文章の要旨である。

三章 随筆

完成問題①

- ◆ (1) しかし、人
- (2) ・落書きしたような線
- ・空港の滑走路
- (3) ウ

【解説】傍線部は、「...というのだろうか。いや、そんなことはない。」という意味合いの表現。すぐあとの「最初から偉大で驚異的なしこきを持つていた」という部分から、現代と差がないと考えていることがわかる。

- (4) 無常
- (5) ア
- (6) イ

【解説】前半の部分で人間のすばらしさ、後半の部分で人間の愚かしさについて述べているが、最後の段落に「深く、無常を覚えた」とあるのに注目する。

三章 随筆

完成問題②

- ◆ (1) 小さな島 都会 あいさつ
- (2) どの島でも慣になった
- (3) ① 人と自然が豊かに交わる生き方
- ② 自動車社会

【解説】筆者が知夫里島と中ノ島を比較している一文「知

たかい、「知らず」は「知らない」、「青し」は「青い」である。

② 定型詩

③ 五七調

【解説】行の初めが五音で、続いて七音になっているものは、五七調とよばれる。

④ 文語定型詩

- (4) ア

- (5) 生き方 見合った

【解説】自動車社会になっても、気持ちのいいあいさつが交わされている中ノ島を見て、筆者はあいさつの本質を知ったのである。

書いてみよう

【例】この前、ふと、知らないお年寄りに「こんにちは」とあいさつをしたら、とてもうれしそうな顔をされた。あいさつは、人の心を和やかにするんだなと思った。(七十二字)

四章 詩 1 詩の種類・表現技法

基本問題①



詩の種類

- (1) 口語
- (2) 自由
- (3) 口語自由詩

【詩に用いられている表現技法】 描きたい

【解説】くり返している部分が強調され、作者の訴えたいことが読み手にはつきりと伝わるという効果がある。



- (1) 文語詩

【解説】第二連の「あた、かき」は、現代の言葉では「あた

四章 詩 1 詩の種類・表現技法

基本問題②



- (1) 三

【解説】一行あいているところが二か所あるので、連は三つとわかる。

- (2) イ
- (3) ちよろちよろ・もももこ・こそこそ
- (4) あ——っはっはっはっは

【解説】くすぐったいのをがまんしていた山が、こらえきれなくなつて笑っている様子は、笑い声を表す言葉からはつきりわかる。

- (5) ウ

【解説】人でないものを人に見たてる擬人法は、そのも

の生き生きと表すと同時に、親しみやすい身近な感じを与える効果がある。

- (1) 三九七 いちめんのなのはな 九
- (2) ア
- (3) ウ
- (4) イ

**解説** アはカタカナで、イは漢字で書かれた場合の感じである。それぞれを想像してひらがなばかりの場合と比べてみよう。

**四章詩 2 詩の鑑賞** 基本問題①



- (1) 外はもうすぐ春らしい
- (2) 響いている
- (3) ときめかせて
- (4) イ

**解説** 「もうすぐわたしは割れる」「まだ見たこともない山へ胸をときめかせて」に着目すると、新しい出発を控えて、期待感を高めている様子がわかる。



- (1) 五
- (2) 早く 戦争
- (3) ウ
- (4) 街は明るくなったのだよ

**解説** 敵の爆撃を恐れて消されていた家や街の電灯が、

戦争が終わって、つけられるようになった様子を表している。

**四章詩 2 詩の鑑賞** 基本問題②



- (1) そんなときはないか
- (2) 噴水の水 一枚の落葉

**解説** 普通は、むなしくわびしく見えるものさえ、楽しそうに見えるほど、作者の気持ちはずんずんなのである。



- (1) 秋
- (2) 擬人
- (3) イ

**解説** 「サヨナラ」のかわりに「あいさつをかわしている」などは、それぞれ夏や木々の葉を人に見立てた表現。

- (3) 三
  - (4) 迷子のセミ
  - (5) 麦わら帽子
  - (6) 波の音
  - (7) ア
- (順不同)

**四章詩** 完成問題①

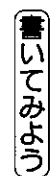


- (1) イ
- (2) 四
- (3) ウ

**解説** 第二連の「もう夜。」も、一つの連に数える。

**解説** 第一連の「正午」、最後の連の「匂い」「時間」が体言止めになっている。最後の連には、反復法も使われている。

- (4) もう夜。
- (5) イ
- (6) ぼくはいったい何をした？
- (7) 第三連の初めの二行と倒置する形になっている。
- (8) ア



- (7) 香りのよい健康
- (8) 自分を愛する心

**例** ぼくは、自分の言動にきちんと責任を持つことを大切にしたいと思っている。他人を傷つけることなく、自分がほかの人の役にも立てる第一歩だと思っているからである。(七十七字)

**四章詩** 完成問題②



- (1) 口語自由詩
- (2) 奈々子
- (3) 酸っぱい苦勞
- (4) 期待 応えよう 自分 駄目

**解説** 第二連の「ひとが ほかからの：知ってしまったから。」にお父さんが——線②のように思う理由が述べられている。

- (5) A 他人
- B 世界

**五章古典 1 歴史的仮名遣い** 基本問題①



- (1) いう
- (2) やまぎわ
- (3) まいる
- (4) ひおけ

- (1) あわす
- (2) うちわ
- (3) こよい
- (4) まどう

- ⑤ なお
- ⑥ よわ
- ⑦ こわごわ
- ⑧ こえ
- ⑨ おる
- ⑩ いる

**解説** ⑧の「ゑ」や、⑩の「ゐ」は、現代仮名遣いで使われない字なので、特に注意して覚えておく。

2

- ① よろず
- ② はじ

3

- ① たたかわん
- ② かえりなん

**解説** ①の「む」、②の「なむ」に着目しよう。

54

- ① もうで
- ② たのしゅう
- ③ しょうしん
- ④ がんじつ

6

五章 古典 1 歴史的仮名遣い

基本問題②

1

- ① まどえど

**解説** 設問文に「すべてひらがなで」とあることに気をつけよう。

五章 古典 1 歴史的仮名遣い

標準問題

1

- (1) イ
- (2) きわめて

2

- (1) ウ やまならん
- ① イ おもいて
- ② イ こたえて
- ⑦ ア ようなし

**解説** ⑦の「やう」はア段音+「う」なので、「やう」に直す。

**解説** ④の「問ふ」は「答ふ」と対になる言葉。一組にして覚えておこう。

五章 古典 2 重要古語と内容の理解 基本問題①

確認

★ 古語の意味 とても かわいらしい様子で

古文特有の意味 あった 光っている

**解説** 「けり」は「…た」、「たり」は「…ている」

2

- ② かいなし
- ① いても
- ② うちわ
- ③ うろくず
- ④ やしなひける
- ② うつくじゅう
- ① いたり
- ① ちこう
- ② とびいそぐさえ
- ③ あわれなり
- ① おそわるるようにて
- ② あいたたかわん

**解説** ①は「は」を「わ」に、「やう」を「よう」に直す。②は「ひ」を「い」に、「は」を「わ」に、「む」を「ん」に直す。それぞれ数か所ずつ直さなければならぬので注意しよう。

- ③ ころみてん
- ② おもいて
- ③ つがいて
- ④ ひょうと
- ⑤ ようにて
- ⑥ したまえるぞ
- ⑦ なきまどう

1

- ① 月の眺めのよいころ
- ② 言うまでもない
- ③ やはり
- ④ 趣がある
- ① さつと
- ② 気の毒だ
- ② かぐや姫

**助詞の省略** 背丈三寸ぐらいである人  
という意味を表すことが多い。

**解説** 現代語訳を参考にしてみよう。「おぼしつる」は「お思いになつていた」、「うち着せたてまつり」は「着せてさしあげる」の意味を表す。

1

- (1) イ
- (2) をかし

**解説** どちらも「趣がある」というような意味である。

2

- (1) ①
- (4) ウ
- (3) まして
- (2) ア
- (3) いらつしやり

**解説** ①の「月の出づる」を現代語に訳すと、「月が姿を現す」となる。

**解説** 「おはす」は「いらっしやる」という意味の尊敬語である。  
(4) 獵師 象 普賢菩薩

**五章 古典 2 重要古語と内容の理解 標準問題**

P.118 **1** (1) ア

**解説** 現代語訳に気をつけて、「家の周辺」は「光り輝いて」(述語)の主語を作る語であることをとらえよう。

- (2) ウ  
(3) イ

**解説** ②の「ほど」は、物事の程度を大まかに表している。

P.119 **2**

- (1) 雪 霜 真っ白  
(3) イ

**解説** 現代語訳から考えよう。「そう」は、前の「雪の降った」と「霜が真っ白におりている」を指している。

- (2) ウ  
(3) ふさわしい  
(4) ウ

**五章 古典 3 故事成語 基本問題①**

P.120 **確認** (1) 背水の陣  
(2) 五十歩百歩

**1** (1) 蛇足

(2) 漁夫の利  
(3) 螢雪の功  
(4) 推敲

P.121 **2** (1) エ  
(2) ウ  
(3) ア  
(4) イ

**3** (1) エ  
(2) ウ  
(3) ア  
(4) イ

**解説** エの「矛盾」は、つじつまの合わないこと。せかされることと落ち着いてやるようにと言われることは、反するように感じられたのだ。

- (2) ウ  
(3) ア  
(4) イ

**五章 古典 3 故事成語 基本問題②**

P.122 **1** (1) 売る  
(2) 盾

**解説** 直後の商人の言葉の「わが盾の堅きこと...」から、「これ」は盾であることがわかる。

(3) イ

**解説** 現代語訳の「どんなものでも突き通せないものはない」を参考にしよう。「ない...ない」という二重否定は肯定の意味を表す。

- (4) A 矛  
B 盾

P.123 **2**

- (1) イ  
(2) 戦争が始まる  
(3) 五十 百 臆病者  
(4) ウ

**解説** 百歩逃げた者も五十歩逃げた者も逃げ出したことに変わりはないことから、違うように見えても本質的には変わらないことを意味するようになった。

**五章 古典 完成問題①**

P.124 **1** (1) ③ ④ かるがゆえ  
(2) ① ア  
② イ

**解説** 水に映っている肉のほうが大きく見えたので、「これ」(自分がくわえている肉)を捨てて、「かれ」(水に映っている肉)を取ろうとしたのである。

(3) 欲の深い者たち  
**解説** だれが「財」をうらやんで、それを食らうとす

るのかを文脈から読み取る。

P.125 **2** (1) ④ イ  
(2) ① 決して  
(3) ② だから

**解説** 「まことの仏ならば、よも矢は立ちたまはじ。」が、理由である。この部分の現代語訳を手がかりにして答えよう。

- (4) ウ

**五章 古典 完成問題②**

P.126 **1** (1) ① ② ③ ④  
(2) イ

**解説** 「命も惜しいだろうか」と疑問の形で問いかけて、「いや惜しくはない」という気持ちを表す言い方である。

- (3) (だれが) 中将  
(だれに) 帝  
(4) ア

**解説** 翁、姫、帝がそれぞれの立場で、愛するかくや姫を失い、心から悲しんでいる様子が描かれてい

**2**

る。

(1) 大杯の酒

(2) 蛇の絵 かきあげた

(3) イ

(4) ◎

**解説**

◎のみ、きちんと蛇をかきあげて酒を飲むことのできた者。③・④は、一番先に蛇をかきあげたのに、足をつけたしてしまったために酒を飲みそこなった者。

**書いてみよう**

**例** ぼくはクラスの自己紹介で、自分の趣味や家族について話したとき、つい新築した自分の家の自まんをしてしまった。あとで、あれは蛇足だったと後悔した。

(七十一字)